



# この時代を 生きる家

シリーズ | Tackling the next 100years



The SWEDEN HOUSE

THE PERFORMANCE FOR OUR PLANET

2020 AUTUMN  
No. 186

CONTENTS

2  
[Special 1]  
シリーズ  
この時代を生きる家  
Tackling the next 100years

12  
[Special 2]  
もう一度会いたくて、リモート取材！  
その後、いかがお過ごしですか？  
How have you been with  
Sweden House?

18  
[Technology]  
スウェディちゃんの  
なぜ？なに？どうして？  
教えてムース先生！

22  
[Culture]  
私の小宇宙 Sweden

23  
[Life Style]  
グリーンと暮らせば  
Owner Gardener's Life

24  
[Performance]  
たがわない約束

25  
[Life Style]  
ミュージクの扉  
knock to mjuk

26  
[SWEDEN HOUSE CIRCLE]  
Good Neighbors

企画・発行：スウェーデンハウス(株)  
発行人：村井 秀壽  
編集人：大竹 愛子  
プロデュース：(株)DGコミュニケーションズ  
制作：(株)東北新社

表紙写真：Jann Lipka/imagebank.sweden.se

暮らし方が変わっても、  
変わらない快適。  
100年住める家の実力が、今、  
問われているんだと思う。

この春、目に見えない小さなウイルスのために、「いつもと違う」日々が始まった。突然やってきたステイホームという不自由な状況に、誰もが皆戸惑った。テレワークを始める人、緊張しながら通勤する人、子どもたちはオンライン授業。外食も、遠出も思うようにできない。ONなのか、OFFなのか、家にも落ち着かない……私自身も「自分のペースで過ごせる時間と空間」が実はとても大切だったのだと、気づかされた経験だったし、その点でものすごく、「家」に助けられた数か月だった。



# この時代を 生きる家



ステイホームになってからほどなく、我が家ではファミリールームの一角にワークスペースを設けた。そもそもあつた書斎は、今後もテレワークがメインになるといふ夫に明け渡し、私が移動をしたという形だ。南向きの、快適この上ない書斎だったが、机に向かっている時間が長いのは夫なのだから、仕方がない。

しかし、窓際に机を置いて仕事をしてみると、なかなかどうして快適だ。北向きの窓からは一日中おだやかな光が入ってくるし、パイン材を多用している空間は、リラックスしながら集中できる。3層ガラスの窓を閉めれば、外の音も面白いほど聞こえなくなり、オンライン会議も快適に。スウェーデンハウスなのだから、北向きだろうが窓際だろうが、暖かさは他の部屋と変わらない。机と椅子があれば、どこでもオフィス：スウェーデンハウスのポテンシャルの高さを再発見、といったところだ。





シリーズ | Tackling the next 100years

# この時代を 生きる家





# この時代を 生きる家

— ミニーム — Tackling the next 100years —



家を建てた時、営業さんからファミリールームを勧められたことをよく覚えている。小さくてもいいから作りませんか。ファミリールームはスウェーデンハウスの醍醐味ですから、と彼は言った。スウェーデンハウスだからこそ、階段上のオープンスペースでも活用できる。家族の多目的スペースとして寛げる場所になる。スウェーデンの住思想、家族のありようを具現化するのがファミリールームなのだ。その時には正直よくわからなかったし、この十数年間「何かと便利なスペース」くらいにしか思っていなかった。しかしここへ来て、その真意が身に染みている。

スウェーデンの人々は「おうち時間」を快適に過ごすことに長けている。長く続く極寒の冬にはどうしても家での時間が増えるし、何十年も前から

ら男性も女性もテレワークを活用しながら育児をし、家族との時間を大切にしてきた。みんながずっと家にいる…そんな状況でも「個」を重んじ、「家族」の絆を深める家の在り方、住まい方を、長い年月をかけて身に付けている。ファミリールームというスペースのことだけではない。静けさ、暖かさ、強さ、木のぬくもり、人に優しいモジュール。スウェーデン住宅には、暮らし方の可能性を広げてくれるたくさんの方が備わっている。社会の常識が変わっても、ライフステージが変わっても、家が暮らし方の変化を柔軟に受け止める力を持つていれば、住みかえを検討する必要はない。100年住むということは、そういうことだ。

これからは、もっと家での時間が大切になる。だからこの家を——スウェーデンハウスが創業時から言い続けていたことが、今、加速度をつけて真実になりつつある。





# この時代を 生きる家

— シリーズ — Tackling the next 100years —



娘は和室でミシンをかけ、夫は書齋で釣りやら  
ガーデニングやらの下調べに没頭している。それ  
ぞれが新しい居場所を見つけて、自分のペースで  
過ごしている。このような状況下ではあるが、ワ  
クワクすることを見つけられている。家の持つ可  
能性とはとりもなおさず、家族一人ひとりの、明  
日を生き抜く可能性だ。明日、何が起きるのかわ  
からない。けれど何が起きたとしても、この家は  
「次の一手」を打てる家だ。次の時代も、その次の  
時代も、この家と一緒に見届けたい。愛する家族と、  
100年一緒に。

## 【モデルハウスインフォメーション】

スウェーデンハウスのモデルハウスには、一つひとつの家にも、安  
心して暮らせる心地よさがあります。また築年数を重ねて味わいを  
深めてゆく、それぞれの美しさがあります。ぜひ実際に見て、感じ  
てください。

<https://www.swedenhouse.co.jp/modelhouse/>

## 【掲載モデルハウス】

P2・P5・P6・P7・P10 さいたまハウジングパーク  
モデルハウス（※2020年9月22日でクローズ）  
P3・P4・P9・P11 つくば第1モデルハウス